

# 新たな魅力を創造し 未来へ道をつなぐまちづくりを

奈良市長(奈良県)

仲川げん



### はじめに

710年、平城京に都が遷され、奈良は古代日本の首都として国の礎を築いた。

「青丹よし 奈良の都は咲く花の匂ふが如く 今盛りなり」と万葉集に詠み歌われたその隆盛は、



旧柳生藩家老屋敷

写真提供:奈良市観光協会

平成の世に復元された朱雀門や大極殿にも窺い知ることができる。

また、奈良時代は遣唐使を通じて中国の唐からさまざまな文化がもたらされ、天平文化が開いた。その貴重な文化遺産は、「古都奈良の文化財」としてユネスコ世界遺産に登録され、年間約1500万人の観光客が、その歴史や文化に触れている。

### もう一つの奈良市・ 東部地域

奈良観光は、鹿が戯れる奈良公園や「奈良の大仏様」がある東大寺のイメージが強い。最近では、寺社を中心として栄えた町に端を発し、町人の街としてにぎわい、江戸末期から昭和初期の町家が残る伝統的な町並み「ならまち」も人気だ。

しかし、これらは地勢上、市中心部の一部に過ぎない。地域の東半分は、標高200〜600mのなだらかな山地状の地形に、緑豊かな森林が広がる東部地域である。

同地域は、奈良県北東部にある大和高原の北端に位置している。米や大和茶などの農業が盛んで、市街地とは異なる長閑な生活空間が魅力である。

### 剣聖の里・柳生と 柳生街道「滝坂の道」

東部地域の一つ、柳生は「剣聖の里」として名立たる剣豪を輩出した、時代劇で有名な柳生一族ゆかりの地である。

柳生新陰流の祖である柳生宗厳(石舟斎)、江戸時代に将軍家兵法指南役として仕えた宗矩、新陰流



柳生の里

写真提供:奈良市観光協会

を極めた三厳(十兵衛)は有名で、若き宮本武蔵も修行でこの地を訪れたとされる。現在も、柳生家菩提寺の芳徳寺、旧柳生藩陣屋跡、県内でも珍しい武家屋敷跡の旧柳生藩家老屋敷などが残る。

中心市街地から柳生の地へ向かう道が柳生街道だ。能登川溪流沿



柳生街道滝坂の道

写真提供:奈良市観光協会

いに春日山原始林の中に続く道は、江戸時代に柳生の道場をめざす剣豪達が往来し、昭和初期までは生活道路としても利用されていた。その一部、春日山と高円山の谷あいへの道は、小さな滝が多くある事から「滝坂の道」と呼ばれている。江戸時代に奈良奉行所が敷いたという石畳が今も残り、独特の風情を漂わせている。

また、この周辺は奈良・平安時代から仏教修行の場でもあり、道沿いに残る数多くの石仏と出合える。峠の天辺の茶店には、代金に

かえて武士が置いたとされる鉄砲や槍が現在も残っている。

鹿と大仏様の印象が強い奈良に、「剣聖の里」という歴史的背景と日本の原風景さながらの美しい自然があるという事は、意外と知られていない。

昨今の山歩きブームで「滝坂の道」の知名度も上がりつつあるが、柳生をはじめ東部地域が持つ魅力を発信する事も、本市にとって重要な施策の一つである。

### いにしえから現在、未来へと続く道を

かつて、ヨーロッパやアジアの文化が、シルクロードを通じて唐、そして奈良へ伝わったように、道は古くから地域間で人や文化の交流をもたらしてきた。

中世へ時代が変わった後も、奈良の伝統工芸や民間芸能は街道を通り、京都や大阪を経て全国に広がった。また、全国からは奈良見物に多くの人が足を運んだ。

天平時代から今日まで続く時間の中、先人達が残した歴史や文化に学び、継承しながら本市は発展してきた。道を通じた交流は、どの時代も変わらない奈良の景色と

いえる。

奈良市に限らず、奈良県下には古代から連続し、歴史を背景に持つ街道が数多くある。日本最古の道の一つとされ、古事記や日本書紀、万葉集にも詠われた「山の辺の道」（かつらぎのちの）「葛城古道」はその代表だ。この由緒ある街道資産を生かすべく、奈良県と奈良市をはじめ関係市町村が連携し、「奈良盆地周

### 一口メモ

## 南都七大寺ゆかりの道「柳生街道」「滝坂の道」

奈良は南都と呼ばれ、奈良時代から朝廷の篤い保護を受けた東大寺や興福寺など七つの大寺があった。柳生街道「滝坂の道」は、平安から鎌倉時代にかけて南都七大寺の僧侶



遊型ウォークルート」を整備中である。「日本の心のふるさと・奈良」の息吹を直に感じてもらうようと、県下広域で新たな「歩き旅」を提案する試みである。

そして、本市はリニア中央新幹線の新駅誘致に取り組んでいる。いにしえの時代から人や文化を運んできた道は、新たな未来へと歩みを進めている。

たちの修行の場となっていた。春日山原始林から続く「滝坂の道」に沿って、岩に刻まれた磨崖仏や石仏などが今も残る。

柳生街道は、江戸時代に徳川将軍家の兵法指南役を務めた柳生家が治めた柳生藩につながる街道でもあった。荒木又右衛門や宮本武蔵など名だたる剣豪たちが街道を辿り柳生の地を訪れた。

かつて、藤原氏の荘園だった柳生の地は、藤原道長の子、頼道により氏神である春日社に寄進されて春日社の荘園となった。柳生氏の先祖は、柳生の荘園であった大膳永家と伝えられている。

企画協力：全国街道交流会議「街道交流首長会」